

大学ラグビーの紳士性再生に関する一考察

A study on the regeneration of player's gentlemanship in college rugby

1K05B175

指導教員 主査 吉永武史先生

丹羽 弘旭

副査 友添秀則先生

【<序章>本研究の動機及び目的】

私が中学生のころからラグビーを始めて 10 年になる。中学校入学後にラグビー部の試合を初めて観戦し、エキサイティングなプレーに惹かれてラグビー部に入部した。先輩が激しいタックルを繰り返しているのを見て、言葉では言い表せない興奮を覚えたのである。実際にラグビーに取り組み始めてから、ラグビーにはエキサイティングなスポーツとしての一面を持つとともに、文化的な魅力も有していることに気づいた。ラグビーの精神を表す言葉には「One for All, All for One」や「ノーサイド」などがある。これらの精神に共通していることは、ラグビーが「紳士のスポーツである」ということである。

しかし、昨今のニュースでは、ラグビー選手が起こした不祥事が報道されている。関東学院大学の大麻事件、同志社大学のレイプ未遂事件がそうである。このような事態に対して、ラグビーに情熱をかけている私自身、強い憤りを感じるとともに、「紳士のスポーツ」と呼ばれるラグビーの人間育成への貢献に対する強い懸念から、現状を改善していくためにどのような取り組みが必要であるのかについて検討してみたいというのが本研究の動機である。

本研究では、大学ラグビー選手のモラルに関する現状を明らかにするとともに、そこで生じている問題を解消するための方策を考察する。ラグビーの起源から競技特性、現在行われている取り組みを考察することで、今後、これまでのような不祥事が生じないようにするためにも、

大学ラグビーのあり方について検討することを目的とする。

【第 1 章】

大学スポーツの不祥事が多発しているなか、「紳士のスポーツ」と言われているラグビーも、それは例外ではなかった。その傾向は試合中の選手の態度にもラフプレーとして現れ、ラグビーの精神が失われつつある。そのような事態に対する改善策が必要とされている。

【第 2 章】

「紳士のスポーツ」と言われているラグビーの起源を明らかにした。パブリックスクールのジェントルマン育成の文化は、「ノーサイドの精神」に代表されるように、現在のラグビーにも受け継がれている。また、大西鉄之祐のいうアマチュアリズムも紳士を語る上では重要になってくる。

【第 3 章】

大学ラグビーの現状に危機感を覚えた各大学ラグビー部では、その対策となるものを遂行するために動き出している。早稲田大学ラグビー蹴球部では、「ジェントルマンシップ」というテーマを掲げ、挨拶などの、人として当たり前のマナーに取り組んでいる。そういった細かいことに取り組むことで、ラグビーのプレイにも生かされていくという考えがあるからだ。

【結章】

現在、大学ラグビーの現状を改善するためにさまざまな取り組みが行なわれているが、早稲田大学ラグビー蹴球部は「ジェントルマンシップ」というテーマを掲げた。そのような活動は自身のみで留めておくのではなく、積極的に発信されていくべきである。そうすることで、大学ラグビーのみでなく、大学スポーツ全体のモラルが改善されることを期待したい。